

第6学年3組音楽科学習指導案

令和5年12月5日（火）第5校時
場所 音楽室
児童数 30名
指導者 二木 友理香

1 題材名 「リズムアンサンブルをつくろう」

2 題材について

(1) 児童の実態

本学年の児童は協働して学ぶ児童が多い。本学級も誰とでも活動できる集団である。技能面では旋律の重なり等を理解し、歌ったり演奏したりすることができる児童が多くいる一方、発表等には経験が少なく苦手意識をもつ児童が少なくない。音楽づくりの活動においては、今年度は和音に沿った旋律づくりを行っている。

(2) 題材について

音楽づくりは、テーマなどは決めずに偶然にできたものを作品とする方法と、思いや意図が先にあった上で作る方法という二通りの方法があるが、本学年の児童は、今まで、先に試して偶然にできたものを作品とする流れの学習活動をしてきた。「こんな順番でリズムをつなげたら面白かった」「だんだん重ねていったらもりあがっていく効果があった」など試してみたことからの偶然からの気付きも大切であると思う。しかし、世の中の楽曲の多くは形式があり、形式を意識することは、他の表現や鑑賞の活動をする上で大切であると考え。そこで、本題材では楽曲にはいろいろな形式があることを理解させる活動を多く取り入れていく。また、本時では、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けることができるよう指導していく。その上で全体のまとまりを考えて音楽をつくる活動を展開していく。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、学習指導要領のA表現（3）音楽づくりア（イ）、イ（イ）、ウ（イ）を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどに関わらせて理解して、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。 <知識及び技能>
- (2) 変化を聴き取り、音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) いろいろな音色が重なって生まれる響きに興味・関心をもち、それらを生かして表現する学習に主体的に取り組む。 <学びに向かう力、人間性等>

4 教材

おちゃ

作曲者不明

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	音楽づくりア(イ)	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
	音楽づくりイ(イ)	音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて理解すること。
	音楽づくりウ(イ)	発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けること。
〔共通事項〕	ア	
	イ	変化
主な学習活動	・声の重なる面白さを生かして、リズムアンサンブルをつくる。	

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	知音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて理解している。 技思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。	思変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態変化に興味・関心をもち、友達と協働して、声の響きが重なる面白さを生かして音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。
第1時	知 ワークシート	↓	↓
第2時		思 観察・録音・記述	↓
第3時	技 構成図・演奏聴取		態 観察

7 指導と評価の計画（全3時間）

時	○学習内容 ・主な学習活動
1	○音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて理解する。 ・「ボイスアンサンブル」のモチーフを考える。 ・声の高さや発音の仕方を工夫して響きのよい組合せを考える。 ・4分の4拍子で2小節のリズムをつくる。そのパートを演奏する言葉を考えるテーマに沿って考える。
② 本 時	○変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 ・つくったリズムアンサンブルを用いて全体のまとまりを考えて「ボイスアンサンブル」をつくる。 ・自分たちが選んだ言葉とリズムでリズムアンサンブルをつくる。 ・全体のまとまりを考えてパートの重ね方、始めの部分や終わりの部分を工夫して音楽をつくる。
3	○思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。 ・前時につくった「ボイスアンサンブル」の確認、修正をする。 ・つくった「ボイスアンサンブル」を発表する。 ・考えたテーマと曲中で現れる変化の部分がどのように関係しているか説明したり、演奏をしたりする。

8 本時の学習指導（2／3時）

（1）本時の目標

- ・変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

＜思考力、判断力、表現力等＞

（2）展開

時間	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準と評価方法
10	○いろいろな楽曲の形式を考える。 ・既習曲「星の世界」の形式を考える。 ・既習曲「きらきら星」の形式を考える。 ・「木星」の形式を思い出す。 ・既習曲「おちゃ」を使い、形式を	○形式を一つずつ確認し、ホワイトボードにまとめていく。 ○楽曲がA（提示部）→B（展開部）→A'（再現部）で構成されていることを共有する。

	使った変化がある音楽を体感する。	
	曲全体のまとまりを考えてボイスアンサンブルをつくろう。	
30	○前時につくったリズムアンサンブルを使い、全体のまとまりを考えて「ボイスアンサンブル」をつくる。 ・前時につくったリズムアンサンブルを基に、自分たちで考えたテーマに合った展開部Bをグループでつくる。(個人→グループ) ・全体のまとまりを考えてリズムアンサンブルの構成図をつくる。	○話し合いはグループごとに録音した状態で活動させる。 ○グループ全員のリズムが重なっている2小節のリズムアンサンブルの繰り返し4回分を提示部Aとし、展開部Bは音楽の仕組みを使って変えていくことを意識させる。 ○「序奏→A（提示部）→B（展開部）→A'（再現部）→終奏」等の組合せにすることで、テーマを表現できる場合があることを伝える。 ○演奏し、試しながら完成させるように伝える。 ◇思（行動観察、録音、ワークシート） 〈Cと判断する児童への手立て〉 ・変化の例を複数紹介し、実際に演奏を試すことで、どの変化が設定したテーマに合っているかを考えるように促す。 〈Aと判断する児童の様子〉 ・全体をとおして、テーマを表現するだけでなく、ひとつひとつの変化についてもテーマとの関連をもたせた音楽づくりをしている様子
5	○本時のまとめと振り返りをする。 ・ボイスアンサンブルづくりをして気付いたことや感じたことを発表する。 ・本時の振り返りを記入する。	○「変化」について、気付いたことや感じたことを整理して板書する。 ○テーマ（思い）に沿った音楽づくりをする上で、どのように「変化」を用いたかを記述するよう促す。

※ボイスアンサンブルのテーマ一覧

「クリスマス」「X'mas」「たいこの○人」「アマゾン」「お祭り」
「掃除の時間」「中華」「餅つき」「焼肉」「THE 東京」

9 ICT活用計画等

(1) 本時の板書計画

曲全体のまとまりを考えてボイスアンサンブルつくろう。

『星の世界』 $A \rightarrow A' \rightarrow B \rightarrow A'$

『きらきら星』 $A \rightarrow B \rightarrow A$

『木星』 $A \rightarrow B \rightarrow A' \rightarrow$ (終奏)

ワークシート拡大図①

ワークシート拡大図②

音楽の仕組み図 6枚

(2) 題材で使用する機器

- ・ iPad
- ・ iPhone
- ・ Bluetooth レシーバー
- ・ 電子黒板

(3) 題材で使用するアプリ等

- ・ Google Classroom
- ・ Class Cloud
- ・ GarageBand